会報

第 53 号（2020/1/30）

〒720-0082
広島県福山市木之庄町 4-3-14
Tel&Fax:084-917-5937
Mail:info@crrc-fukuyama.org
CRRC
Community Renaissance Research Center

2020年、新しい年をむかえて

代表理事　安川　悦子

2020年、あけましておめでとうございます。NPO法人コミュニティルネッサンス研究所も、創立されて10年を経過し、多くのみなさまのご好意と協力で、これまで活動をつづけてきました。

風邪をひいて、7回目の子（ねずみ）年の正月を家の中に閉じこもって過ごしているうちに、考えました。

「高齢者がコミュニティのなかで、コミュニティに積極的に関わりながら、人間らしく生きる」。そのための仕掛けや環境づくりをする。こんな思いではじめたこの「研究所」は、この10年の間に、よちよちとではあるが道をきりひらいてきたと。

これからの10年、コミュニティルネッサンス研究所は、どのような道を歩いていくのか。私たち自身も、そしてコミュニティも時の経過とともに「老い」ていく。この「老い」の力を集めて、新しい道を切り開いていく。そんな試みや実践が、カナダやイギリスやオーストラリアで行われているという老年学（ジェロントロジー）の研究書を、私はこのお正月に読みました。本のタイトルを日本語に訳せば、『高齢者資源を活用するコミュニティ ― 農村人口の変化、コミュニティの開発とボランタリーな参加の新分野』という本です。高齢者の力が、高齢者たちだけではなく、コミュニティそのものを活性化し元気を回復させていく。この回復力を、レジリエンス（Rejilience）と名付け、コミュニティ運営の鍵にするというのです。

高齢者が人間らしく生きるとはどういうことか。社会的に意味を持つ労働に「参加」することこそが、「喜び」であり、人間らしく生きることなのだという「疎外の哲学」の持つ意味をかみしめながら考えました。高齢者も社会から隔離されて保護されるだけではダメで、社会的に意味を持つ労働に参加させろと。

2020年度の「とんど」ねずみの絵は城北中学校美術部生徒の作品です。

今後の予定

講演会

「福山の地形のなりたちと自然災害」

3月18日(水)　13時～(約2時間)

・場　所：NPO集会室
・参加費：500円
・講　師：澤田結基さん
（福山市立大学　都市経営学部）
・内　容：福山のまちは災害が少なくて暮らしやすい所だと考えられてきました。ところが一昨年、この地域も水害に見舞われました。異常気象が問題となる中で、これまでには考えられなかった大きな災害が次々と起きています。そこで、福山市立大学の澤田先生にこの福山の地形のなりたちと、起こる可能性のある自然災害についてお話ししていただくことにしました。

私たちも災害に備えて平素から心づもりしておくことが大切ではないでしょうか。多数のご参加をお待ちしています。

問い合わせ・申込先

NPO法人コミュニティルネッサンス研究所
電話・FAX：084-917-5937
メール：info@crrc-fukuyama.org

味噌づくり

2月26日(水)10時～14時

・場　所：NPO集会室
・指　導：藤原スエ子さん
・持ち物：エプロン、三角巾、お手拭き用タオル
・参加費：500円(簡単な昼食付き)

皆さんにご好評いただいている味噌を、今年も手作りします。昼食も分担して準備したいと思います。一緒に楽しく味噌を手作りしてみませんか。お子さん連れの方も大歓迎です。

ジェロントロジー

2月21日(金) 14時～

・場　所：ルネッサンス研究所
・参加費：300円
・内　容：2月からは新しいテキスト、東大高齢社会総合研究機構編『地域包括ケアのすすめ～在宅医療推進のための多職種連携の試み～』を読みます。テキストを準備しますので、ご希望の方はご連絡ください。

「ケアの社会学」を読む会

3月26日(木) 16時半～

・場　所：ルネッサンス研究所
・参加費：300円
・読む本：上野千鶴子著『ケアの社会学』
・内　容：第5章・5：「家族介護」は福祉の含み資産か（P.116から）

今号の内容

・干支小物作り
・すまいる仁伍のお祭り
・もちつき
・オカリナが吹けるよ！講座スタート
・本の紹介

※内容は以下に記載

活動報告

干支小物づくり

昨年12月17日に地域の絆のサービス付き高齢者住宅（以下、サ高住）「すまいる仁伍」にて干支の小物作りを行いました。2018年にオープンした「すまいる仁伍」は、福山自動車時計博物館から城北中学校へ向かうバス道路沿いに建ち、NPOから徒歩1分のところにあります。今回は初めてサ高住「すまいる仁伍」の広い食堂を会場にして、本イベントを行いました。

これまでの小物作りにも毎年参加してこられた、地域の絆のグループホーム「コミュニティホーム仁伍」や、小規模多機能型居宅介護事業所「地域福祉センター仁伍」の利用者さんもサ高住へ移動して来られ、総勢20名の参加者の皆さんと一緒に小物製作を行いました。講師は今年も、神辺観光協会事務局の桑田喜代美さんです。

桑田さんは今回、「子年」をテーマに注連飾り風のデザインを考えて下さいました。大人っぽい紫のしめ縄や、ピンクの造花を使用した素敵なデザインで、玄関に飾るとよく映えそうな色合いです。一見作るのが難しそうに見えますが、利用者さんがお一人でも作りやすいよう、束ねる、針金を巻く、ねじる、ボンドで貼る等、簡単な作業の積み重ねで完成するよう工夫されていました。材料は18セット準備して頂きましたが、見本を見て「私も作りたい！」と飛び入り参加される利用者さんが多数。ご夫婦やお友達同士で協力して一つの作品を仕上げる方もおられ、全てのキットが売り切れるという人気ぶりでした。購入を希望していたスタッフが干支飾りを手に入れられなかったのは嬉しい誤算でした。

桑田さんの説明を聞きながら、しめ縄をねじったり止めたり。多くの方が積極的に製作を楽しんでおられました。お隣のお友達や職員さん、NPOのスタッフと「これで大丈夫？」「いい感じに出来ているよ。」「次はどうするの？」など声をかけ合いながら、和気あいあいと手作業を進めていきます。

これがネズミの絵です。

桑田さん考案の今年の干支飾り。色合いがシックで大好評！

なかにはご自分の被っている帽子に材料の花を飾り、ポーズを取って周囲の笑いを誘う、お茶目な利用者さんも。難しいケ所は講師や職員さんに手伝ってもらいながら最後にネズミの飾りを取り付けて完成。材料は同じですが、完成品は一人一人ちょっとずつ違う、世界にたった一つのオリジナル作品。皆さんそれぞれの個性が感じられるものでした。

後日、すまいる仁伍の責任者の方にお話しを伺うと、その日の夕食の食卓では小物作りの事が話題にのぼったそうです。 地域の絆の3施設が一同に集まっての初めての小物作り。参加者の把握の部分で要領を得ない部分があり、そこがイベントを主催する側の反省点でしたが、楽しいひとときを提供できたようで嬉しいです。

達成感を味わえるオリジナル作品を創り出し、ひとりひとりきめ細やかな目配り気配りで指導くださった桑田さん、どうもありがとうございました。

参加者の皆さん。
ご自分の作品とともに。

すまいる仁伍のお祭り

昨年12月21日（土）に、すまいる仁伍の食堂にて入居されている方とそのご家族を対象としたお祭りが行われ、本NPOも「おでん販売」で参加してきました。

城北中学校の生徒さんによる城北太鼓や、バルーンアートショー等、催し物も準備されている楽しいお祭りでした。まずは町内会長の北村さんからのご挨拶。続いては、エンターテイナーのお二人によるバルーンアートの出し物です。会場のみんなの手拍子で会場の雰囲気を盛り上げながら、あっという間にウサギやゾウ、鳥などの動物を作っていく、楽しいショーでした。ちょうどクリスマスという時期もあり、赤と白の風船を組み合わせてできたサンタクロースの作品は、城北中学校の男子学生さんが 僕、欲しいです！」と挙手され持って帰られました。

次のステージは中学生による太鼓の演奏。仁伍音楽祭のように屋外で聴く演奏と違い、建物の中で聴く太鼓の迫力は満点。一生懸命演奏してくれた中学生に惜しみない拍手がおくられ、アンコールにも応えてくれました。

催しが終わった後は、お待ちかねの「おでん販売」です。30食と予備を数食準備していたのですが、大勢の方が購入してくださり、予備も含めて完売でした。サ高住ではプリンアラモードを販売されており、こちらも大人気でした。（私もいただきましたが、とても美味しかったです。）

おでんの仕込みから当日の販売までお手伝い下さった三浦さん、どうもありがとうございました。

渾身の太鼓演奏に拍手喝采！

見事な手さばき、バルーンアート。

地域の絆　もちつき

昨年末、12月28日（土）に地域の絆のもちつき行事が行われました。今回は副代表理事ひとりの参加でした。

参加者は少なかったものの、職員さんに手を添えられてもちつきをする利用者さんも多く、それぞれ杵をふるったり、餅を丸めたり、杵取りしたり。本当の意味での 地域の絆もちつき祭り」となりました。

一昨年の、地域の絆
もちつきの様子

会員の本の紹介

本会の会員で理事でもある中島康晴さんが、今回三冊の本を出版されました。

一冊は慶応大学の井出英策先生とソーシャルワークにたずさわる人たち三人の共著。書名は『ソーシャルワーカー～身近」を革命する人たち～』。筑摩書房から筑摩新書の形で出版されました。この本の内容は、誰もが安心でき、死ぬまで人間らしく生きられる社会を目指して現場で格闘している人々に向けたメッセージです。

二冊は中島さんの単著。『出会い直し」の地域共生社会』という書名で上巻・下巻に分かれています。

上巻では「国家資格を一本化する」ことが必要ではないか、という提言です。現在ソーシャルワーカーの国家資格は「社会福祉士」「介護福祉士」「精神保健福祉士」の三つに分かれ、それに関わる法は「社会福祉士及び介護福祉士法」と「精神保健福祉士法」の二つに分かれている。このことがソーシャルワーカーの社会変革をしにくくしている、というのがその理由です。

下巻は、「すべての人々の尊厳を保障する社会保障のサービスが確立され、一人一人の個性が伸ばされていく社会」に向けて、「未来のソーシャルワーカー」が「自負心と挑戦心」を持って、どのような「これからの社会変革」をめざすのかを示したものです。

ご希望の方、お申し出いただければ貸し出します。

「オカリナが吹けるよ！」スタート

1月14日（火）に新しく「オカリナが吹けるよ！」が始まりました。6人の受講生でスタート。講師の村山さんにオカリナの持ち方や、楽譜の読み方から教わりました。

初日は主に「ラ」と「ド」の指使いを練習し、たった1時間半の練習で「ほたるこい」の曲を合奏することができました。

28日（火）の2度目の講習では、音楽の理論についても学び、参加者から「分かり易い！」「長調、短調」といった名称の理由が分かってスッキリした」等といった声も。

講習の風景

編集後記

コミュニティルネッサンス研究所では、しばしば「高齢者の役割」が話題に上ります。それに関連した、私の10年前のエピソードをご紹介します。

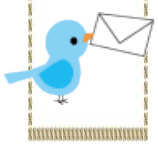
息子の幼稚園行事で餅つきを行った時のこと。毎年保護者役員が主導で行うのですが、主に30代のお母さんたち全員が、もちつき未経験。「誰か経験豊富な達人に来てもらいたいよね。」ということで、Mちゃんのおばあちゃんに来て頂くことになりました。前日までに役員で材料や器具を揃え、モチ米も水に浸けました。

当日の朝。園庭で釜場（かまば）や羽釜（はがま）、せいろのセッティングをするところからおばあちゃんが大活躍。テキパキと周囲に指示を出してくれるので、お母さんたちもはりきって動けます。モチ米の蒸し具合や餅つきのアドバイスも。「これぐらいで良かろう、石臼にうつそうかね。」「これぐらいつけば十分。まるめても良いよ。」の声かけが有り難く、安心します。園児たちも「ぺったんぺったん」と臼と杵でお餅つき。そして皆でできたてのお餅を頬ばり、餅つき行事は大成功に終わりました。

Mちゃんのおばあちゃんは監督役に務め、的確に指示して下さいました。若いお母さん全員に頼られて、要の役割を果たしておられました。こういうことが「高齢者の役割」だったのだと思います。

（兼）

NPOへのお便り募集！



コミルネへのお便りを募集します。ご感想・ご意見などをTEL・FAX又はメールアドレスにお寄せ下さい。